

絶滅が危ぶまれる小さなカエル ニホンアカガエル



↑猿江公園のニホンアカガエルのペア。抱きついている方がオス。暖かい大雨の日に現れた。体長5cmほどの可愛らしいカエルだ。



↑枯葉に紛れるとどこにいるか見つけるのが大変。色彩の変異は大きい。



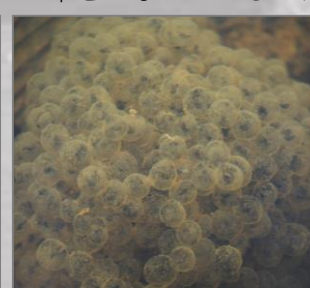
↑泳いでいるオス。天敵の少ない冬に、先にオスが現れてメスを待つ。ケケケケ...と素早いテンポで鳴く。



↑メスが陸に上がったとしてもオスは決してメスを離さない。この状態のまま数時間経って、ようやく産卵が始まる。



↑卵塊。生みたては小さくて透明だったゼリー状の物質（左）が、しばらく経つと水を吸って膨らみ、色も濁る（右）。大切な卵を保護する物質だ。ヒキガエルはヒモ状だが、アカガエルの卵塊は団子状になるので違いがすぐに分かる。見える範囲では10個以上の卵塊を見つけられた。



「猿江公園にはアカガエルがいるんですよ。」生徒からそう聞いたときは、正直、半信半疑だった。ニホンアカガエルは、東京では23区内と北多摩、南多摩で「絶滅危惧ⅠB類（EN）」、西多摩でも「絶滅危惧Ⅱ類（VU）」に指定されている。平地を好むため開発の影響を受けやすく、ここ数十年で全国的に激減してしまっている。そんなカエルがまさか猿江に?!これは探さないわけにはいかない。アカガエルは冬に一度産卵のために冬眠から覚めて、卵を産むと暖くなる5月頃まで再び休眠（春眠）をする。もしいるのであれば、是非とも繁殖の様子を見てみたい。そう思って何度も猿江公園に足を運んだ。

2月15日、大雨が降り気温も最高14°Cと暖かった日の夜、ヒキガエルたちの繁殖がピークに達して大賑わいの池に、小さなカエルが現れた。ニホンアカガエルだ!本当にいたのだ!小さくて可愛らしい姿を見て、よくぞ生き残ってくれましたと声をかけたくなった。産卵の様子は残念ながら見ることはできなかったが（アカガエルの産卵は夜中なのだ）、数日後に見に行ってみるとたくさんの卵塊を見つけることができた。

猿江公園は、四方を道路に囲まれ外部の自然環境から分断され、孤立している。こういった場所に生息する局所個体群が、今もなお細々と命をつないでいるのは大変嬉しいことである。しかし、

その一方で、孤立してるが故に簡単に絶滅してしまう可能性もあり、今後が非常に心配だ。猿江公園の池にはウシガエルやザリガニなどの外来生物も多数侵入しており、在来生物にとっては脅威だ。

公園では小さい子供たちがカエルを見つけて大喜びだった。この子供たちが大人になった時も、アカガエルがこの場所に居続けてくれることを切に願う。